

4. 僻地における乳幼児歯科保健管理計画

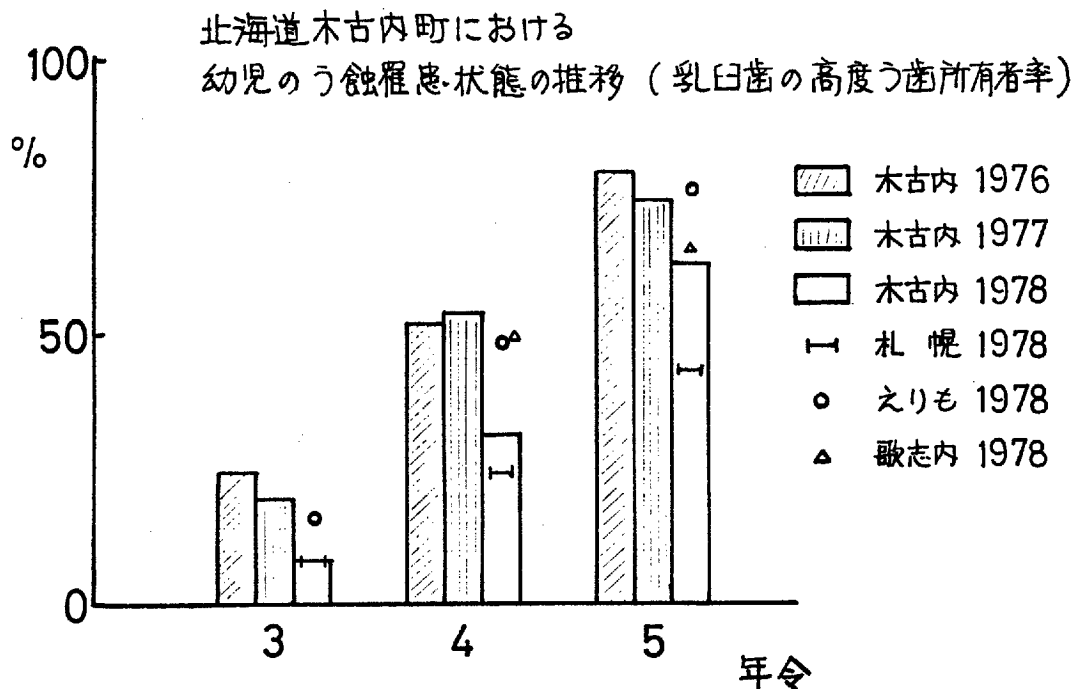
谷 宏

北海道上磯郡木古内町において、昭和51年度より、1才6カ月から就学前までの幼児、約600名について、継年的に年2回、歯科保健診査、指導およびう蝕予防処置を行って来た。そこで、昭和53年度まで、3カ年にわたるう蝕患性の推移を報告する。

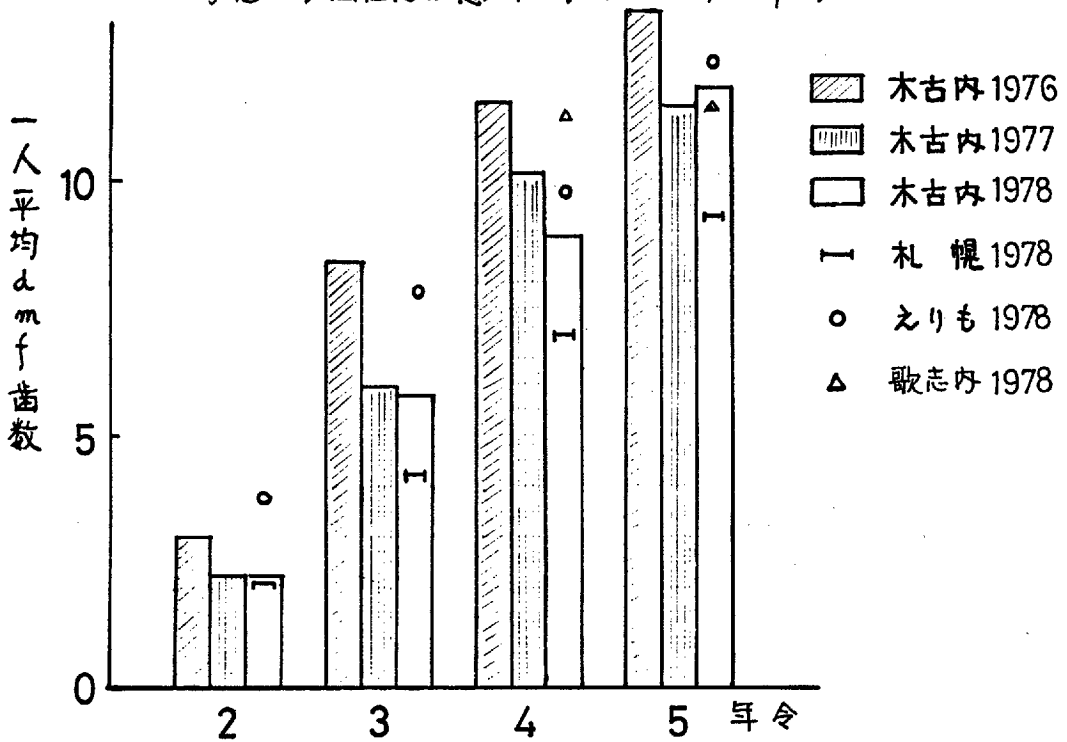
一人平均 dmft でみると、木古内ではう蝕は減少傾向を示しており、これまでの指導や予防処置を行っていなかった道内えりも町や歌志内市の保育園児よりも少く、札幌市内の保育園児の値に近づいているように思われる。

乳白歯のう蝕が進行すると、咀嚼が十分行なわれなくなるが、この乳白歯が高度う蝕に罹患している者の割合についてみても減少傾向がみられ、札幌に比べて、5才児は高いが3才児、4才児ではほぼ同様な罹患率を示している。

近年、幼児のう蝕罹患傾向は都市が低く、地方や僻地が高い傾向を示すことが報告されており、われわれも前回、東京に比べて札幌は高く、木古内はさらに高いことを報告した。このようなり蝕罹患の地域差は地域の家庭における保育条件や食生活の差によるものと考えられる。木古内においては、サイダーやジュース類などの甘い飲みものや、アメ類の摂取が1才児、2才児からすでに高いので、育児指導、食生活指導の一環として、これらの摂取を減少させることができれば、さらに、う蝕数は減少し、manpower の上からも歯科治療が可能となれば高度う蝕を持つ者も減少し、木古内町における幼児の歯科保健状態はさらに改善されるものと思われる。



北海道木古内町における
 幼児のう蝕罹患状態の推移 (1人平均 $dmft$)



5. 幼児の歯科保健管理方法についての予備的研究

飯塚 喜一
 矢崎 武

幼児に限らず、歯科保健管理、とくにう蝕についての管理体系を整備することは大切なことであるが、それには、検診時点におけるう蝕罹患性の予測をある程度の確度で行えることは大変役立つものである。

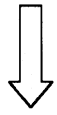
このため、1才6カ月児歯科健診においては、歯垢付着状態と保育環境との2点からそれを推定しようとしている。

しかし、この場合もつとも基礎となるものは、その時点におけるう蝕罹患状態の肉眼的診査結果である。肉眼的診査結果は検出条件や検出基準などによってかなり影響をうけ、したがって、その結果の客観性に問題をのこすことが多い。

それだけでなく、複数回の検査結果を比較して、その推移の方向を判定しようとする、技術的にその不確実性はさらに問題となる。

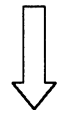
こういうことを防ぐために、簡易口腔内写真撮影によって得た資料により、幼児の歯科保健管理の体系を考えようとした。

このため、神奈川県三浦市の5つの幼稚園および保育所の3~5才の幼児560名について、普通



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



北海道上磯郡木古内町において、昭和 51 年度より、1 才 6 カ月から就学前までの幼児、約 600 名について、継年的に年 2 回、歯科保健診査、指導およびう蝕予防処置を行って来た。そこで、昭和 53 年度まで、3 カ年にわたるう蝕患性の推移を報告する。

一人平均 dmft でみると、木古内ではう蝕は減少傾向を示しており、これまでの指導や予防処置を行っていなかった道内えりも町や歌志内市の保育園児よりも少く、札幌市内の保育園児の値に近づいているように思われる。